

# 我が国の科学技術近代化遺産に関する研究 —山口県周南地域における事例を中心として—

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 中川 明子

## 1. 平成20年10月～平成21年9月における研究状況

昨年7月に提出いたしました計画によって研究を進めてきた結果、研究状況は以下の通りでございますことをご報告申し上げます。

### 1-1. 周南市役所庁舎について

現在、周南市役所については基本調査を終え、研究室の指導学生が卒業論文としてまとめた後、2009年8月26日、日本建築学会大会（東北）にて、『周南市役所庁舎に関する研究』と題し、発表を行いました。

調査途中、周南市からは確認申請図面の複写許可をいただきましたが、貴会からの研究費のお蔭でこれらの書類の電子データ化が実現しました。京都の株式会社内藤建築事務所様からも資料提供を受けるなどのご協力をいただき、以下の結論を得ました。

すなわち、

1. この庁舎が、山口県下における現役の庁舎建築の中で2番目に古いものであること（昭和29年4月竣工。）、
2. 設計者については、基本設計が、当時の徳山市の建築課長吉永定雄、実施設計は京大出身で武田五一の弟子の一人であると推察される内藤資忠であること、
3. 当時、内藤事務所が実用新案、及び特許登録を申請していたアーチスラブ構法が使われ、構造意匠的に価値があること、
4. 建設後50年を経えており、登録有形文化財として登録できる可能性があること

などを明らかにしました。

このテーマでは、調査員の人件費、大会発表に関する登録費、及び旅費を支出いたしました。

また、この件に関しましては、周南市において、調査対象であった市庁舎の登録文化財登録の検討が始められている状況であり、周南市総務部総務課宛に研究結果の提供を行いました。

## 1-2. 周南市長公舎について

周南市長公舎の設計者の特定につきましては、平成20年9月に防衛研究所で関連資料検索を行いました。残念ながら1週間の調査では設計者を特定する資料は見つからなかったものの、徳山海軍燃料廠は呉鎮守府の管轄下にあったことが再確認できたため、呉鎮守府建築部の手になる可能性が高いと言えるに至っております。今後は、アジア歴史資料センターに順次アップされている防衛研究所資料を利用して調査を継続したいと考えております。(このテーマでは、防衛研究所までの旅費、滞在費を出ささせていただきました。)

## 1-3. 毎日興業ビル(テアトル徳山)について

村野藤吾の設計で、昭和36年に竣工した毎日興業ビルについては、所有者が確認申請図面を保存していたため、これらの図面の電子データ化を図ると共に、村野の意匠的な特徴が非常に良く観察できる手摺りについて村野の他の作品と比較した結果、毎日興業ビルで見られる階段手摺りについては、他の建物でも見られる手法が使われている一方、毎日興業ビル独自のデザインもあると判明し、毎日興業ビルが持つ、代替不可能な価値の一つを明らかにすることが出来ました。

2009年8月29日、日本建築学会大会(東北)にて、『毎日興業ビルにおける村野藤吾の手摺りに関する研究』と題し、発表を行いました。

このテーマでは、調査員の人件費、発表に関する登録費、及び旅費を支出いたしました。

## 1-4. 周南市、旧徳山地区中心部における歴史的建造物の分布、煉瓦塀の分布について

周南市、旧徳山地区中心部に於いて、建設後50年を経ていると思われる建造物及び煉瓦塀について目視(調査員二人の人件費を出ささせていただきました。)で確認し、地図上にプロットし、戦時中に米軍偵察機が撮影した航空写真と照合した結果、300近い建造物が残存していること、煉瓦塀も60箇所ほどに残っていることが明らかになりました。

これらの分布と様式の分析についてはもっと深める必要がありますが、戦前の徳山の反映の様子を忍ぶ縁が得られ、周南市中心部にも登録文化財候補が残存していることが明らかになりました。特に、煉瓦塀については、積み方に様々なバリエーションが見られ、また、群として残っていることから、煉瓦塀を歩きながら見て楽しめるような散策コースの開発につなげていきたいと考えております。

なお、この件につきましては、2009年9月16日、周南ふるさと歴史講座6(主催:周南市教育委員会中央公民館(生涯学習センター)/共催:周南ふるさと歴史講座実行委員会)において、「周南市内の歴史的遺産について」と題して発表する機会を得ることができました。この発表については地元紙、日刊新周南から取材を受け、それを機に、地元ラジオ局、KRYでも歴史的遺産について紹介する機会を得ました。さらに、地元テレビ局、TYSからも取材を受けました。

さらに、この件についてまとめた論文、『周南市の歴史的建造物及び煉瓦塀に関する研究～旧徳山中心地区の現状について～』(共著)中川明子、相本聡美、金谷優希奈、査読有り)、は、徳山工業高等専門学校紀要第33号に掲載が確定しています。

このテーマでは、調査員の人件費を支出いたしました。

## 2. 中間報告時点での研究スケジュールについて

2009年7月時点での中間報告においては、

平成21年7月	周南地域の企業へのアンケート発送及び回収
平成21年8月	アンケート結果の取り纏め
	回天発射訓練基地跡予備調査
平成21年8月～9月	研究結果の取り纏め

をスケジュールとして挙げておりましたが、その結果は以下のようになっております。

### 2-1. 近代化遺産リストについて

近隣自治体の沿岸部の工場地帯における近代化遺産リストの詳細については、近隣自治体内の商工会議所の協力を得て、地域内の事業所の状況について再確認した結果、限られた期間内で、詳細なアンケートを収集するのは時間的、労力的に難しいと判断し、「山口県の近代化遺産」に治められている近代化遺産の追跡調査に切り替えましたが、現時点までにアンケート素案は出来ておりますが、残念ながら、発送、データ回収にいたりませんでした。

### 2-2. 回天発射訓練基地跡調査について

周南市の沖合、徳山湾に浮かぶ大津島には、第二次世界大戦中、人間魚雷回天発射訓練基地が置かれ、多くの烈士が訓練を行いました。その跡地は現在、周南市都市整備課他の管理下にあります。この発射訓練基地の来歴を、防衛研究所の資料を用いて明らかにし、今後の保存活用のための基礎資料の作成につなげるべく、予備調査を行いました。その概要は以下の通りです。

1. 調査期間：2009（平成21）年9月7日（月）～9月11日（金）
2. 調査対象：周南市大津島 大津島幼小中学校内（変電所跡、危険物貯蔵庫跡、点火試験場跡）  
兵士訓練用階段跡、回天発射訓練基地跡、魚雷見張り台跡
3. 調査参加者：徳山工業高等専門学校土木建築工学科5年生  
岡本千春、木村未希、西山翔太郎、三戸翔子、磯村和樹、稲津貴和子、古谷亮、三津井牧子、山根成史
4. 調査内容：各施設の実測調査

査後、実測結果をCADにて作図を行い、今後は、文献調査も進める予定です。

この調査においては、調査員の人件費、旅費等を出いたしました。

以上につきましてご支援を賜り、誠にありがとうございました。この成果を活かし、今後も更に研究を深めて参りたいと存じます。